

第2回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録【概要】

日 時 平成28年7月19日(火)14:00~16:06

場 所 津山市役所本庁2階第1委員会室

出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 11名

委員長 松岡信義(美作大学短期大学部教授)

副委員長 松本浩之(津山市PTA連合会会長)

委 員 市村京子(津山市中学校長会)、小坂田昌平(津山市体育協会会長)、
可児通宏(くらしき作陽大学非常勤講師及び津山市文化財保護委員)、
甲田敦三(津山市小学校長会長)、菅原良二(一般公募)、杉山明
(津山工業高等専門学校教授)、塚本さつき(津山市立幼稚園長会長)、
福田邦夫(津山朝日新聞社代表取締役社長)、八木芙佐子(津山市文
化連盟会長)

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 18名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

第1章

(事務局説明)

- ・現行計画の趣旨等を踏まえ、今回の計画策定に至ったことについて、記載。
- ・教育基本法第17条第2項にもとづき策定した計画であったこと。
- ・教育基本理念「つなぐ力を育む」を具現化するため、3つの教育基本目標を掲げて、施策を推進してきたこと。
- ・これまでの4年間の取り組みの中で、着実な成果があったものとともに、引き続き重点的、継続的に取り組むべき施策や課題もあったこと。
- ・国や県において教育振興基本計画の改定が行われたことを踏まえて、現行計画の10年間を通じて目指すべき本市の教育の姿を再確認するとともに、平成29年度から今後5年間に重点的に取り組む施策を示すため、「津山市教育振興基本計画(第2期)」を策定することとなった。

(委員の意見)

- ・第3章「津山市が目指す教育」いわゆる理念部分があってから、第2章これまでの「取組成果と課題」があるという流れの方が、国・県教育振興基本計画の構成にも準じており

良いのではないか。

第2章

(事務局説明)

・平成24年に策定した津山市教育振興基本計画に基づいて、施策を推進してきた。これまで取組んできた津山市の教育施策について、25の小分類に分けて事業の概要、成果、課題について、検証を行った。(25の事業について成果と課題を中心に説明)

(委員の意見)

- ・選挙権が18歳以上に引き下げられたことは、5年前からの大きな変化。主権者教育を新たに課題に盛り込んではどうか。
- ・成果の中で5年前の計画策定によって新たに取組むようになったものと、従前から継続してきた取り組みに区分することはできないか。出来る範囲でよいので強調してほしい。
- ・教育活動を9年間のスパンで見ようとしたときに学区の問題がある。同じ小学校でも中学校ブロックになると別れてしまうところがあり、いろいろな調整が必要となっている。
- ・文科省の示す適正規模・適正配置もある中で、児童生徒数も減少しており、学校統廃合も含めた学区の再編成、修正を考えていくのか。
- ・小学校では基礎学力の定着に一定の成果が出ている。一方、学習指導要領や大学入試も今後大きく変わってくる。県平均のポイントを意識するよりも、論理的思考や判断力といった「活用力」の育成に向け、5年先を見据えた授業改善の必要性を盛り込んでもらいたい。
- ・文科省ではデジタル教科書を開発している。教材提示装置はどう活用していくかを考えていかないといけない。教科書がアナログからデジタルに変わっていく時代に、向こう5年間の成果と課題を踏まえて、対応できるようにしてもらいたい。
- ・重点課題としてあがっていた総合型地域スポーツクラブの記載がない。地域振興スポーツの目玉であったが、今後5年間の計画にはあがらないのか。総合型地域スポーツクラブ推進の経緯から、地域に誤解の無いようお願いしたい。
- ・成果に「文化に触れる機会が充実」とあるが、文芸について市民レベルの発表の機会がひとつもないような気がするので、課題として記述してもらいたい。
- ・今後の課題の中に美術館についての項目がないのはおかしい。
- ・取組に「各校に道徳教育推進教員を位置づけ……進めてきた」とあるが、「心のノート(私たちの道徳)」という教材の活用はどうしているか。
- ・課題に「通常学級に在籍する特別に支援を要する児童生徒について……指導の充実が必要です」とあるが、特別教室と通常教室の境界が難しい中、インクルーシブ教育が言われている。個別の指導計画で今後、どのように対応されるのか。
- ・過去5年間で達成したもの、達成率の低かったものについて、今後の記載や対策は考えていくのか。達成したものは通常業務に戻すなどして、スクラップアンドビルドを行い、

バランスをとる必要があるのではないか。

・文科省は道徳の教科化とセットで「心のノート(私たちの道徳)」を小中学校に配布するという。どう活用していくかによって、学校全体が安定し、学力も上がってくると思う。国・県が示すポイントに一喜一憂することはない。子どもの将来を考えた時、こうあるべきというのを出していったらよい。

・教育環境が整ったので子どもが落ち着いてきたのか、心の教育が規範意識を向上させたのか、検証もしていかなければいけない。また、5年先にどこに力を入れるかを考えるとき、学校現場に集中するのは大変厳しい。教育委員会として何かということであれば、道徳教育や規範意識の上に立った豊かな心について、力を入れて行く施策がよいのではないか。

・成果に「街頭指導者数は減少傾向」とあるが、重点取組の成果指標が「街頭指導活動の充実」になっていてもよいのか。

・課題に「不登校やひきこもりなど……サポート体制が必要です」とあるが、どう変化してきたのかが具体的に見えるとよい。

その他

・第3回検討委員会の開催について

平成28年8月23日(火)16時開会

4.その他

なし

5.閉会